

◎昼過ぎ、飯を喰って自転車で安威川までやってきた。下水処理場の門のそばに自転車を止め、土手の外側を河口に向かって走り出した。この辺りは、大きな中央市場が、大きなトラックターミナルが続く。ガードレールの右側を大小のトラック走っていく。中央市場にはトラックが何台も止まっている。「一度 夜に やってきたい 夜の 活気を 見てみたい」と思うばかりで、わざわざ午前2時や3時に起きて見に来る勇氣はない。中央市場の流通が少なくなってきたとはいえ、人や車の喧騒はすごいだろうと想像がつく。今現在、昼過ぎの中央市場は片付けの時間、掃除の時間かな。

◎黄色い大型トラックが止まっている。黄色といっても運転席の部分だけで、後ろの大きな荷台の箱はアルミのシルバー色でできている。モノトーンが多い風景の中で、その黄色が目を引き。黄色の車は憧れがある、二十歳代に弟が、「黄色の いすず ベレット」を乗り回していた。大学の仲間と車を改造して、車高を低く、エンジン音も爆裂気味、山の中を猛スピードで走るらしい。考えてみれば命がけの遊び、よくまあ無事だったと思う。その色が、絵の具でいうには“イエローデープ”ぐらいだったか、今になって憧れる色だ。

◎トラックの黄色、絵の具でいうには“イエローライト”かな。絵の具やのカタログを見ると、十以上の種類があるが、オレの絵具箱には、“イエローライト”“イエローデープ”“レモンイエロー”“イエローオレンジ”ぐらいだけれど、“イエローオレンジ”は、赤系に区別している。

◎絵の話だけれど、オレは黄色ばかりでは描かない、黄色を主体には使わないね。黄色はアクセントに使う。青を主体にした絵、緑を主体にした絵、赤を主体にした絵、そんな絵の中に黄色の線や、黄色の一筆を置くと、絵が華やかに色めき立って、嬉しくなってくるのが好きだ。

◎午前中も緑系を主体とした100号の絵と、青系を主体とした40号の絵に、“カドミウムイエロー”の線や一筆を何箇所かに入れたのには満足している。

◎ついでの話だけれど、“レモンイエロー”は本当にレモン色の絵具、なかなか重くお気に入りの絵具だ。黄色に黄土色を少し混ぜると、黄色が渋くなりこれはこれでいい色だ。ただオレはほとんど絵の具は混ぜない。混ぜると発色が鈍るという理由からで、青の絵具を塗って乾いたら、黄色を塗る、そうすれば濁りのない緑ができる、なんて人さまにもえらそうなことを言っている。

◎二三日前の夜に、やはり河原に出かけるために家を出た。7時頃、もう真っ暗な中、道の左側にまんまるとお月さまがキラリあった。「おお 美しいねえ 満月かなあ」ところが河原を走りだすと、満月が右に出ている。「さっきは左で いまは右 おかしいねえ」不思議がっていた。「お前 根本的に 東西南北が あっているのか スカタンめ」と怒られそうだが、こと時にオレは悟った。「地球の形は 曲線なんだ」

◎地球には、自然の中には、直線はない、水の流れに沿った、グニュグニュの曲線しかない。直線は人工のものだけだ。「バッタは まっすぐ 飛ぶぜ」「弦は まっすぐ 垂れるぜ」「それでも風が吹きや 曲がるよ」「だから 地球の形は 面白い ふたつとない 形なんだ」「地球の形」という題の絵もいくつか描いたね。

◎グニュグニュの曲線とまっすぐな直線が交わり、重なり、オレの頭の中の地磁気が狂い、世界がばら色に見えるのだ。こんな馬鹿らしいことには、こんな簡単なことには、笑ってしまうねえ。

◎土手にあがって安威川を見ると、ススキの穂がぼんやりお陽さんにぼっと浮かぶ、その隙間に流れが見える。今日はさほど寒くない、川の水もぼんやりお陽さんにねっとり流れる。あれれ、変なことを思いついた。

◎おれは河原の 枯れすすき
同じおまえも 枯れすすき
どうせ二人は この世では
花の咲かない 枯れすすき

◎森繁久彌が楽しそうに歌っていた。今、目の前のススキを見て、「そうか あれが 枯れすすき か」いつもい
見ている、枯れているのは知っている、それがどうした、と思っていたが、あらためて、「枯れすすき」とはあ
れのことかと思った。歌の歌詞をつぶやいて、あのススキが貧相で可哀そうとは思わない、自分やらあい方や
らを思い浮かべて、「貧相な枯れすすき 今は花も咲かない・・・」とは思わない。

◎秋にはまっ白なススキの穂が冬になって、白がいささか褐色を帯びている。ススキの穂が、下は枯れているが、
その白いほわほわが、それでもほわりほわり、天に向かってほっこりしている。湯に浸かって気持ちのよさそ
うに、「ちょっとみてくれ」と目配せするようにほっこりしている。オレは安威川のススキを見て、枯れすすき
とは思わない、白いほわほわが楽しさを語りかけてくれる、いいじゃないですか。

◎空を見ている。今の空は晴れの青と、明るい白い雲がほわりほわり。向こうの方とあっちの方、地平線に近い
ところには、もこもこの入道風な雲が遠慮気味に、遠慮気味というのは、夏のあのハイパワーな入道君ほどで
はないという表現なんだよ。その遠慮気味な入道君隙間から、「天使の階段」と呼ばれる光のすじが、これもま
た遠慮気味にある。

◎天使の階段とおぼろげに覚えていることを勝手に言ってみたが、調べてみた。正式名称は、「薄明光線」気象用
語のようだが、「天使のはしご」とも言われるらしい。こいつの写真をたくさんの方がとっておられるが、この
うすぼんやりな鋭い線は、なかなかむつかしい、うまく写せないな。

◎空の色は絵の具で表せない、これは子供のころから、この歳になっても、空の青色は絵の具で表せない。若い
頃にスケッチをしていて、青い絵の具を絵の上部に入れると、なんだか、途端に、絵が安っぽくなり、いつも
いやな思いをしていた。空が青いという思い込みが、その常識が、絵の具の顔料の質感では表せない。もっ
とも上手く描いている奴もいるにはいるが、オレにはできないのだから話すこともやめておこう。

◎山の風景写真を撮って、中西さんに、デジタル写真の現像方法を教えてもらった。普通に青く写った空をより
青く、より輝かせる、「お 青い あおい・・・」と喜んだが、オレにとって、絵と同じように、その青は違うと
思い始めた。思い始めたがまだ解決方法は見つからない。

◎中西さんやほかのプロカメラマンの空の色は、「青くて あおあおしいほんとにきれい そう思うけどねえ」
とちょっと逡巡している、ちょっと考えている。

◎一日おいて、今日はあと何時間で雨が降り出すという空模様。南の方の一部だけばかり青い空がある。今日の
空は、ほとんどが真っ白けのグレーに墨を滲ませたようなところばかりだ。

◎「あ そうか 水墨画だ」 雪の景色、霞や霧のかかった山々、曇っている空は墨絵がさまになっている。墨
は水に溶け、紙の奥へ吸い込まれていく、この吸い込まれていく現象が、ものすごく遠い彼方に吸い込まれて
いく表現に耐えるのかねえ、オレにはわからない水墨画の世界だ。

◎先ほど言った青い部分、隣のグレーの部分、白の中に、グレーの中に、ちょっと青が入って、白を刷いて、青
色を刷いて、青をかすませ、なおかつ透き通っている。白色が濁らずに青の中に溶け込んでいる。「おお なん
ときれいねえ 光のきれいさ あれは描けない 眺めるだけでいい」

◎ええい、青い空も曇った空も、眺めるだけでいい。ぐるり空が広がっているこの河原は、好きだ。

◎中央市場にゴミ捨て場がある。ゴミ捨て場といっても車が二三台入るスペースをコの字に囲ってある。そこに
キャベツが捨ててある。トラック一台分のキャベツだ、さすがに中央市場だ。コメントはしない。

◎自転車を止めている場所は、茨木市の下水処理場門の横、ここは昔からあったようだけれど、今は日々工事を
やっているが下水処理はやっていない、汚水が川に流れていない。

- ◎もう少し進むと、茨木市のものよりもっと大きな下水処理場がある。名前を、「大阪府中央水未来センター」という。大阪府の下水処理場がある辺りの住所は、「宮島」この辺りは、オレンチの近所も含め、「島」「玉島」「沢良宜浜」・・・と海を想像する地名が並ぶ、そう、千年二千年前はこの辺りは海辺だった。大阪は海の底だった。なので地盤が蒟蒻状に軟弱なんだそうだ、なので地震に弱い。
- ◎「大阪府中央水未来センター」という名の下水処理場からは、ちょっと匂いのする水がどんどん安威川に流れている。50歳前に、初めてここ通って、「臭いなあ 淋しいなあ 背筋が 撫ぜられるなあ」と思った。四半世紀前は、草ぼうぼう、野良犬がうろつき、安威川もヘドロ川のなごりを残していた。
- ◎下水が流れているところには、水鳥がいっぱい集まっている。水の勢いが少し治まったあたりには魚釣りのおっさん連が糸を垂らしている。たまに50センチ70センチの鯉をゲットしている。亀も釣っている。オオバンを釣り上げたおっさんもいた。「オオバン どない するのかね」と見ていたが、ばたばた騒ぐ鳥に網をかぶせペンチで糸を切っていた。オオバンは大慌てで水の上に逃げ去って行ったが、針はついたままだろう。生き物たちが集まっている、下水が流れ込み、妙な匂いのするこの流れが、好きなのかね。
- ◎下水処理を調べて驚いたのは、微生物の活躍。汚れがたっぷりの水に、微生物が詰まっている土を入れ、微生物が、「おお 気持ちがいい 食欲がわいてきた」という環境を作ると、汚れがたっぷりの水がちまききれいな水になるそうだ。そんな魔法のような方法でやっていたとは驚きだ。
- ◎下水処理場には、うんこも、泡だらけの洗剤も、雨水も、工場排水も、集まってくる。先日大雨が降ったときは、排水溝から水がどんどん流れ出していた。上の橋を渡るのが怖いぐらいに流れていた。
- ◎この下水処理は敷地が大きく樹々がいっぱい、しかも人は少ない。静かな樹々の中、鳥たちが飛び交っている。チョウゲンボウ君もこのあたりをうろうろしているのかな。ハトにカラス、ヒヨ、ぶんぶん飛んでいる。毎日ここに来れば鳥を見られる。ひ弱そうに見えるが、どうしてどうしてなかなかぶんぶん飛び回り、それこそ、シベリヤや、ベトナムに、ひっと飛びの強者ばかりだ。
- ◎河川敷は、舗装がされた遊歩道と、土のところがある。土のところはそれこそ草がはえる生える。夏場、三回ぐらい大規模草刈り屋が入っている。冬の今は土が見えるぐらいに草はない。その土の上に、カモとオオバンが何かをついばんでいる。たまにヌートリアも水から上がってきて何かを喰っている。カモとオオバンが何かをついばんでいるのか、熱心に嘴を動かしている。オレが近づくと、よたよたよたと流れの方に逃げていく。カモはふわり浮き上がって20Mほど先の水面にポチャリ飛び込む。オオバンは水辺のそばまでそれこそ、よたよたと身体ふりふり、そのまま水にダイビング。
- ◎オオバンはクイナの仲間だそうだ。昔は関東以北だけだったが、今は日本全国にいるそうだ。黒いからだに白いおでこの洒落たモノトーンで、西洋では美や雅のシンボルといわれるとか。白い頭部の連想から、「禿げ上がり : as bald as a coot」
- ◎オオバンは見たことが無かった。5年ほど前に彼らを見て、「あれれ 見ない鳥だ」とかんちゃんに聞いた。
- ◎オオバンはマット系の黒、しっとりクログロにまっ白の額。美だ雅だと思わないが、図鑑の解説を読むと、わかったようで愛着が湧く。なんと、カモは潜れないらしい、そういえば、カモは尻を水から突き出して餌をとっている。それに比べオオバンは水中に潜るらしい。水に潜って旨いごちそうをくわえてきたところを、カモに失敬されるらしい。と解説には出ている。カモとオオバン、仲良く水の上、陸に上がってこれまた仲良く食べているのだがねえ。
- ◎黒い鳥は、カラス、カワウ、そしてオオバン。オオバンが飛んでいる姿、見たことないね。
- ◎子ども電話科学相談で、「鳥の先祖は恐竜です」だって。

NHK：ポスト恐竜：プロジェクト編集<恐竜絶滅・哺乳類の戦い>

◎6650 万年前の恐竜は絶滅した。直径が 10 キロもある巨大隕石がユカタン半島近くの海に落下した。ユカタン半島とは、メキシコとキューバの間あたり。1.5 億年間、繁栄を続けていた恐竜が、巨大隕石の激突で、一瞬にして地球全体が、トースター状態の暑さ、降り積もる灰、大津波、恐竜は数時間で全滅した。<ええ 1.5 億年間、地球上をわがもの顔で反映していた恐竜が、たった数時間で絶滅・・・？>

◎巨大隕石はどこからやってきたのか、それがわかっているらしい。今から 1.6 億年前、火星と木星の間あたりで、直径 160 キロと、直径 60 キロの小惑星どうしが激突した。1 億年後にその破片のひとつが地球に、ユカタン半島に衝突した。<ええ！こんなことまで解明できるのか！しかも 1 億年、全地球の恐竜が瞬時に近い時間で絶滅したという説、それが世界的に結認められるまで 30 年の論争期間があった。>

◎たいがいの人は、生物の歴史は単細胞生物で始まり、次第に複雑になっていたことぐらいはぼんやり知っている。単細胞から大きくなり、魚になり、両生類を経て爬虫類になり、最後に哺乳類になるというのが一般的な生物史のイメージだろう。<オレは、単細胞から、ミミズになり、虫になり、ネズミになり、サルかな。>

◎恐竜は 2.3 億年前、哺乳類は 2.2 億年前、それぞれ出現したと化石によって裏付けられる。<恐竜は大きい、恐ろしい、それに比べ人の祖先の哺乳類はネズミ状態、逃げまわり、隠れまわり、おどおど生きていた・・・>

◎恐竜が初めて発見されたのはなんと 1825 年。イギリスでイグアノドンが認められた。恐竜化石は、それまでは大型動物の骨とか、爬虫類の一種とか、考えられていた。<200 年も経っていないのだ。>

◎恐竜はトカゲなんかには似ていない。異常に大型。内温性で高い運動能力を持っていたのでは。

◎羽毛恐竜の化石発見で、内温性を獲得していたといわれる。羽毛によって体温の調節ができる。

◎直立二足歩行で、恐竜は効率よく移動し、獲物を食料を大量に取得した。

◎恐竜が、卵を産みっぱなしにするのではなく、抱卵する化石が発見された。抱卵することで生存率が上がる。

◎同じ時期、哺乳類は 10 センチ程度のネズミのようなもの、胎盤があった。

◎胎盤繁殖は危機的な状況下では、抱卵よりデメリットが大きい。胎盤繁殖は妊娠期間、動きが鈍くなり、母子ともに滅びる。抱卵繁殖は、危機的な状況下では、卵を放置して逃げれば、親は助かる。

◎6650 万年前の隕石事件で、哺乳類は生き延びられた。身体が小さいのが幸いして、地中に潜り、粗食に耐えた。<滅びたのは恐竜だけ？植物は？鳥は？昆虫は？なんで恐竜だけが全滅した？>

◎恐竜のことはほとんど何も知らない。1.5 億年間も繁栄を続けた恐竜だという。地球という空間はわかるが、1.5 億年の月日は長すぎて理解の物差しがない、道教の世界だ。世界の学者が、この長い年月を細分化して、そこに、いろいろ恐竜君を当てはめ地図を作ればいいが、これはオレの世界ではない。

◎恐竜絶滅の引き金が、1 億年前の宇宙のかなたの出来事から発していることがわかった、とはまた、これもよくまあ計算したものだと、あきれ果てながらも拍手、科学とはすごいものだね。

◎ホモサピエンスが誕生して、10 万年ぐらい？ ネアンデルタール人が 50 万年ぐらい？ アフリカで類人猿からヒトらしきものがあらわれたのが 500 万年前ぐらい？ そんな数字から見れば、億年とはケタ違いの話。

◎億年前の話が出てくると、1 万年前に日本に暮らしていた縄文人がにわかにならぬ存在にふくれ上がる。とはいえ縄文人のこともわかっていることが少ない。毛皮を着ていたのか、葉っぱを乾燥させて身体に巻いていたのか。いくつかの言葉を持って、「ああじゃ」「こうじゃ」と怒り笑っていたのでは・・・。

松原始著<Bird Maniax 鳥と世界の不思議な関係>

◎松原先生は、カラスの専門家かと思っていた。なんのなんの、この本の内容は、「おお オレが 知りたかったこと へええ そうなんだ」と楽しく読んだ。

◎先生は、小中学校時代から、軍用機、航空戦史、飛行機・・動物系、鳥へと、はまっていったそうだ。

◎肉眼では鳥の羽ばたきは、パタパタ上下に振っているように見えるが、高速度撮影でやっとわかったことは、斜め8の字に振っていた。翼の角度を変えながら斜め前に向かって翼を振り下ろす。振り上げるときは、空気抵抗を減らすよう翼をひねり振り上げたり、肘をまげて翼を垂らしながら振り上げる。機械ではできない。

◎1891年グライダーで空を飛ぶことに成功した。これなら飛翔筋はいらない。ムネニクとササミだね。

◎強風の時には、カラスはあっさり飛ぶのをやめるが、海上のミサゴは飛ぶのをやめるわけにはいかない。

◎鳥の翼は、動物の前肢だ。骨も同じようについている。翼のたたみ方は人が腕を曲げるのに準ずる。止まっている時は翼をたたむが、飛んでいる時も風の具合によって、翼の曲げ伸ばしで瞬時に対応する。

◎ハヤブサは急降下から急上昇に転じる時の荷重が27Gに対し戦闘機はせいぜい9Gだ。27Gだと潰れてしまう。

◎1903年人類は有人飛行に成功した。わずか60年で、高度2万メートル、マッハ3で飛べるようになった。

◎仲間に豪快オヤジがおられる。中西さんはアメリカでスカイダイビングをやったことがあるそうだ。パラシュートが開く前段階で、3人で手をつなぐ写真がある。「真ん中が 俺」だって。パラシュートが開くまでの何分間か、地球に向かって、重力どおりに真っ逆さまに落ちていくのだろうけれど、恐ろしいね。

◎毎日出向く河川敷では、小鳥も中型の鳥も、ブイブイ空を駆け回っている。カモやオオバンも、水の上に浮かんで足で水を掻いているが、飛び上がれば、ひとつとびにシベリヤだ、すごいんだ。

◎見る、見える、の話。これだけ科学が進化しても、「鳥の 目から見れば こうなる」これはまだ不明らしい、

◎人間にとって、「知る」「理解する」は基本、「見る」だ。「聞く」「嗅ぐ」ではない。哺乳類の先祖は夜行生活が長かったので、色を感じる能力が退化し、臭覚優先の動物になった。その中で霊長類は、臭覚を捨て視覚中心に戻った。我々は哺乳類の中の異端なのである。そのてん鳥は世界を見ている。

◎可視光域の幅。800~400ナノメートル・虹の赤橙黄緑青藍紫が入っている。赤青緑の三原色である。他の哺乳類は二原色。鳥（脊椎動物も）は300ナノメートルの紫外線が見える。「紫外線の色 どんな色・・・？」

◎鳥が人間より優れているのは、色彩分解能力、きめ細かく色を見分けられる。時間分解能力、素早く動くものをブレズにキチンと見えている。

◎カラスの例：カラスの視覚は驚異的。森の中に潜んでいてもカラスはこちらを見ている。樹間を飛びながら100メートルも先から見えている。

◎「色には自信がある 色のことは まかせてくれ」と職業がら言いたいが、そんなえらそうなことが言えないといつも反省している。千も万もある色の数、しかも色の三原色なら絵の具のことかと言へるが、光の三原色となると、捉えにくい。絵ということになると、「色は 隣の色との 響きあい」が大切で、「赤がきれい 青がきれい」といったところで、その隣の色と、その面積によって良くも悪くもなる。「同じ色のペンキを作ってくれ」というような単純な技術とはまったく違うものだ。

◎色を混ぜると、色を重ねるでは、できた色が同じように見えてもまったく違うものだ。黄と青を混ぜて、緑色を作るとき、二つの色を混ぜることで、色が多少濁ってしまう。濁るだけではなく、下の色を隠してしまう、覆い隠してしまうのだ。下のきたない色を隠したり、濁った色も色のうちなんだけれど、多用すると重い絵になってしまう。

◎本当に、紫外線とは何色だろう、鳥の目が再現できればすごいだろうね、と渴望している。

松原始著<Bird Maniax 鳥と世界の不思議な関係>

- ◎人間は直立二足歩行、これは動物の中で、特異な存在だそうだ。視点が高くなった、捕食者を威嚇できる、両手で食物等がもてる、長距離を移動できる。ただ、他の動物のように、四足から二足に変わっていった過程がまだわかっていないそうだ。<歩けるという自然なふるまい、うれしいね、ありがたいね。>
- ◎鳥は二足歩行する。鳥の先祖は恐竜だという意見がおおよそ定着している。恐竜には、二足と四足がいる。ただ恐竜には、尾がある、尾で前後のバランスをとっている。
- ◎鳥の身体は、一晩でできあがったものではない。恐竜が先祖なら、恐竜の姿に近い、長い胴体と尾をもった先祖がいたはずだ。翼が完成、筋肉が発達、三半規管をはじめ空間認識機能が発達、足の構造が、尻尾が無くなる、こういう恐竜から鳥に変化する過程の化石がまだ出ていないそうだ。
- ◎背の高い鳥が足を曲げる、人とは反対の角度に、後ろ向きに、「く」の字に曲げる。あそこはヒザだと思っていたがカカトなんだ、ヒザじゃないんだ。ヒザはもっと上、胴体付近にあるのだ、驚きの発見だ。
- ◎ツバメはほとんど歩かない。電線や枝に止まるか、交尾抱卵の時以外は飛んでいる。アマツバメはもっと極端で、空中で寝ている

- ◎羽の話。6500 万年前、隕石衝突で恐竜は短時間に絶滅した。ただ比較的小型で、飛ぶのが上手だった奴らが、鳥として生き残った。「鳥は 恐竜の一種なんだよね」
- ◎正式には羽毛という。羽毛はウロコ、爪と、同じケラチンでできている。昆虫は翅である。
- ◎鳥の羽毛は、潰れ、破れたりしても、撫ぜれば再生する。防水性、揮発性は抜群である。オレの山用雨具は、ゴアテックスという高級品ながら、購入した当初は水玉がぼろぼろ流れていたが、今やただの布である。防水スプレーぐらいでは、元に戻らない。
- ◎動物全般の話だけれど、寒いところほど身体が大きい、これは体積と表面積の問題らしい。1センチの立方体なら、体積は1CMの3乗、表面積は6CMの2乗。2センチの立方体なら、体積は8CMの3乗、表面積は24CMの2乗。大きいほど熱を放散する。表面積の部分の割合が少ないほど寒さに強い。この説明、わかるねえ。
- ◎鳥の体温は40度、高熱だね。もうすこし高くなると、たんぱく質が破壊するそうだ。ぎりぎりの体温だそうだ。寒い時には、ダウンジャケットのダウンを自前で持っている。反対にグイグイ飛ぶと高体温になるので放熱しなければならぬ。体内にある気嚢という袋が呼吸時の吸排気経路になり効率よく放熱する。鳥は驚異的な酸素取り込み能力と同時に、効率よく排熱もできる。
- ◎水鳥のカモ類が水中で泳ぐ時は足が冷たいので、熱交換装置を持っている。冷たい足の血液を温める装置だ。気温20度なら暖かいが、水温20度の中では、「冷たいねえ ちみたいよ」

- ◎新幹線の話が出てきた、新幹線の工夫の中に、鳥の真似をしている、姿・形、を取り入れているとは・・・
- ◎河原にカラスがたくさん舞っている。5メートルほどそばを飛んでいくと、羽ばたきの音が聞こえる。「ばさばさばさ(先生はヒュンヒュンヒュン)」をちょっとスマートに、鋭くした感じで力強い音がする。トビに、手をつかんでいたサンドイッチを取られた人は、「何も感じなかった 突然後ろから かっさらわれた」という。
- ◎新幹線のパンタグラフは断面が流線型で、上部に突起がついているらしい。この突起が、風切り音を抑えている。フクロウの羽をモデルにしたそうだ。<滑らかな方が静かだと思いが、そうではないんだ。>
- ◎フクロウは夜間に狩りをする鳥。目は色を見る能力を減らしても、暗い中でよく見える能力を増した。耳は5メートル以内なら、10センチの誤差以内で相手の居場所を特定できる。<目も耳もすごいんだ。>
- ◎新幹線の長いノーズ。新幹線がトンネルに入ると、出口側で大きな騒音、「トンネルドン」が起きる。数百メートル離れた民家からも苦情が出るくらい、大きく不快らしい。「カワセミは 水に飛び込むときに ほとんど水しぶきを上げない」をヒントに長いノーズが生まれた。お客がたくさん座れる座席を犠牲にしている。

- ◎「雪が見たい 東吉野村の明神平には つもっているだろう」「一緒に登ろう」と素麺工房の榊井君の前で、三宅さん待ち合わせた。30分ほど遅れるというので素麺工房を訪ねた。「工房見せて」「おお 岡村さん どうぞ」二階にあがった。81歳のお母さん、何度か電話で話した奥さん、働く人が10人不足、暖かい醗酵室で箸の太さの素麺のもとがぐるぐる巻かれている。素麺づくりは毎朝2時起床らしい。「また来るね」「またねえ」榊井君は二十歳代、茨木の画材屋でバイトをしていた。幾度も我が家に来てくれた。
- ◎10:30に登り始めた。山のサイトに、「八滝七壺より以降は通行止め 登山口まで 1時間アルバイトをさせられた」これを見て、「あれれ 1時間余計にかかるのか・・・」と思っただが、通行止めの車止めが外され、ラッキーなことに上の駐車場まで行けた。1時間の林道歩きは痛いもんね。「八滝七壺とは どんどこ」これまたネットによると、なかなかいい景観らしい、次回是非じっくり止まって見てみよう。
- ◎天気予報通り、薄曇りで暖かい。昨夜降ったのか、地面が濡れている、4回の渡渉、岩が濡れて滑りやすい、「慎重に しんちょうに」簡単な渡渉だけれど、バランス感覚も歳だねえ、しんちょうだよ。昔から、谷筋の道は好きじゃない。山は、谷筋、尾根筋、どこからも登れる。この道が好きで、この道が嫌いなんてことは言ってもらえない。ただ、谷筋は、岩の間を水が流れ、夏は涼しく快適だけれど、岩の上は滑るので好きではない。
- ◎明神滝が近づいた、どンドン、ざあざあ、けっこうな水量、半分は凍っている、大きな滝の氷瀑だ。広角レンズじゃ撮れないね。風が冷たい、エンヤコラの登りでシャツの中はほっこり汗、3枚着ているがひんやりこの冷たさはまだまだ冬を感じる。雪が所々に残っている。
- ◎樹々はまだまだ冬。葉もなく枝が千万本も天を刺している、オレンジ茶の枯葉が着いている奴も見える。苔はキレイ、雨が降ったせいなのか、みどり、みどり、みどりだ。
- ◎「雪も 氷もないよ」この情報で、アイゼン・ピッケルは車に置いてきてしまった。ピッケルは持ってくるべきだった。冷たくなってきた、手袋を出した、おだやかな登山道だ。
- ◎12:30 明神平着、天王寺高校小屋の軒下で昼飯を広げる。湯を沸かす。寒い、冷たい、百メートル先が見えないくらいの霧、スキー場跡は雪が半分ある。山々が、樹々が墨絵の世界できれいだ、やはり快晴がいい。
- ◎ちょっと上まで散策、10センチぐらいの雪を踏んでいく。この辺りの緩やかな斜面のポッコリが好きなんだ。樹々も、岩も、地面も、なんだか楽しそう、こんな冬の曇った日でもそれなりに素晴らしい、ここはいい。鳥を発見、逃げない、歩いている。「ちょちょちょ ちょ お うんちをたれた ハト風だけど もっと小さい」家でネット図鑑<サントリー愛鳥活動>を調べる。大きさ、色、季節、環境と項目がある。大きさはスズメよりちょっと大きい、小。色は茶色が入っていたが、おおむねグレー。雪の中の冬。1400Mの高山。「いわひばり」かな、たぶんこれだろう、解説では、動きがゆっくりしているらしい。
- ◎2:30 明神岳 1432M。この辺りはけっこう標高が高いんだ、比良は1000M ちょっと、高島トレイルは700Mでこぼこ、関西では大峯に次いで高いのだとあらためて実感。標高が高いからといって、登山口も標高が高ければ、ふうふうはあはあの時間は同じなんだ。高低によって、寒さ暑さ、生き物や植物が違ってくる。
- ◎ブナがによきによき、雪の斜面に若々しい元気なブナが静かに立っている。歩いていると体が暖かくなってきた、なんともはや、「気持ちがいい」静かな山の中、人は誰もいない。たくさん車は止まっていたが、我々が登る時にたくさんの方とすれ違った。皆さん早朝から登っておられるようだ。
- ◎あれれ、こんなところに歯車が、エンジンが、ボイラーが。小屋の跡にコンクリートの基礎が残り、スキー客用なのか、木材用なのか、機械の片割れがさび付いている。ヤンマーのマークが残っている。
- ◎3時、昼飯を喰った場所から降り始める。今頃の時間になって空が明るくなってきた。青空も少し顔を出している、気温も上がってきているのか、ダウンを脱いで、ジャンパーも脱いだ。
- ◎車のところでコーヒーでも煎れようとしたがなんと水がない。谷筋を歩いて来たのに汲み忘れた。それじゃ帰りましよう一路茨木へ。吹田の上西さん、茨木の前川さんを降ろして、エンジンをかけると変な音がする。走り出してメーターを見るとオーバーヒートだ。なんとか家までもってくれ、そろりなんとか帰り着いた。

松原始著<Bird Maniax 鳥と世界の不思議な関係>

◎キツツキは、10回/1秒 木を叩くそうだ。機関銃の連射速度だそうだ。オレ山で、彼らの真似をするが、「カカカ」と口でいってもとても追いつけない。山では彼ら、いつもどこかで「カカカ」をやっている。

◎カワセミは崖に激突して穴をあけ、巣穴を作るそうだ。カワセミは安威川上流部で何度か見た。きれい！

◎ナビゲーションの話：GPS 機能はすばらしい。上空にある衛星がスマホと連絡をとりあって、地球上の今いる場所を特定してくれる。次に、行きたい場所を希望すると、「〇〇の進路方向へ 〇〇時に着く」と教えてくれる、便利なものだ。飛行機も利用しているのかな、潜水艦はどうかな、(昔の方法らしい、ジャイロスコープ・・)。

◎鳥のナビゲーションはいくつかある。「これがだめなら こっちで」と使い分けているのでは、という先生の結論だ。世界中の学者連が、衛星や発信機や足輪などで、鳥を追いかけて何かを見つけようとしている。生物のことは、わからないことやわかっていることがぞろぞろで、いたちごっこ、「これだ」はなかなかないのかもね。

◎ランドマーク。山や木や川といった目印を覚えている。目印を中心に頭の中の地図を作っていく。先日も愛宕山のとっぺんから、京都タワーを見つけ、おおよその京都市内がわかった。

◎バイキングは沿岸沿いを航行した。陸から離れてしまった時のために、積み込んだ陸生のカラスやハトを放った。カラスやハトは、陸があればそっちに飛んでいく、陸が無ければ船に戻ってきたらしい。

◎天測航法：太陽や星を見て方角を決める方法。北半球の夜は真北の北極星。南半球は星座で判断。

◎羅針盤：ルネッサンス期に地磁気を利用した磁気コンパスが発明される。ネットでは、コンパスと羅針盤の違いが今ひとつわからない。方位は、「磁石」でいい、コンパスという名の磁石をポシェットに常備している。

◎ついでに、中国四大発明が出てきた。「紙・印刷・火薬・羅針盤」だそうだ。これはすごい。

◎現在地を知る。大航海時代は緯度（赤道と並行）・経度（南北）で調べた。緯度は太陽で簡単にわかる。経度は時刻と船の速度で計算するしか方法はなく、誤差の大きいものだったらしい。

◎渡り鳥はすごい。北極圏と南極圏を行き来するキョクアジサシ9万キロ。南極の氷のふちを1.7万キロ歩き続けるアデリーペンギン。標高7千Mのヒマラヤを超えるインドガン。強者どもたくさんいる。

◎渡り鳥は基本的に天測航法である。鳥は体内時計を司る特殊たんぱく質で正確な時刻がわかる。鳥は太陽を見て、「今何時で 太陽の方角から 南はこっち」とわかる。夜は星座を見る。鳥かごに覆いをかぶせたり、鳥を移動したり、時間をずらしたり、プラネタリウムを見せたり、と様々な実験が世界中で行われたようだ。

◎サケは大海を回遊し生まれた川に帰ってくる。磁気を帯びた粒子を身体に持っている。河口からは生まれ故郷の川の匂いがある。鳥にも磁気を感知する能力があることがわかった。

◎鳥の臭覚。アホウドリやミズナギドリはオキアミの匂いを探して飛ぶことがわかった。

◎地図の読めない男、最近、オレは、自身のことをこう思っている。「どこにいる どうなっている 頭が ぱにくる」目的地の方向がわからなくなって、「なにが なにやら」状態になる。地図というのは、考えてみれば画像のひとつ、「右へ 行って ちょっと 下がって」なんて言っていると頭の中に地図の画像ができあがるが、実際の地図とまったく違うものができあがっている。「バカモン 地図を絵と違うぞ」 いずれにしても、ほんま物の地図を見て、あらためて頭の中の物との違いを発見する。「右へ 行って ちょっと 下がって」こういうことに、時間と空間を入れる。速度や広がり、変化や消滅、その他のたくさんの要素や決まり事を入れる。それに喜怒哀楽の叙情性が加わり、感情や爆発が加わる、なんともはや、素晴らしい膨張世界ではないのかな。

「右へ 行って ちょっと 下がって」程度ならコンピューターで簡単に始末がつく。抒情やら爆発やらも、ちょっと賢いコンピューターで解決する。難しいのは解決しないもの、回答がないもの、終わりのないもの、こういうやつが厄介だ。こういう厄介なものに、ぶち当たり、「エンヤコラ どっこいしょ 上がったたり下がったり いつまでも 続くんじゃ・・」 こういうことが最高に面白いんじゃないのかねえ。

昼飯を喰って、鳥飼方面に歩いている。今日はまたまた寒波がやって来ているようで寒い。安威川の橋を渡り始めるといちだんと冷たい風が吹く、平地でも水のそばは冷たい。なぜ、歩いているかということ、修理を頼んでいた車ができあがったと電話があり、自転車で行こうかとも思ったが、歩こうと決めた。

二三年ぐらい前から、「オレ 足が遅くなった」と痛感している。かつては街を歩いても、だれにも負けなかった、速かった、てくてくどこまでも歩けた、グイグイ歩くと汗が出た、「また汗臭くなるな」これは嫌だったが、歩いた。最近では若いおっさんが気軽に追い抜いていく、女の人にも追い抜かされる。夜の徘徊も、あそこまでならひとつ飛びぐらいに思っていた場所が、なかなか遠い、着かない、いやになるねえ。

話はとんだが、五日前に行った東吉野村・明神からの帰り、同道のお二人を吹田、茨木でおろして、さあ帰って風呂とビールだと車を走らせた。なんだか、ぼこぼこ音がする。道のどこかで、誰かが何かをしているのかなと思ったが、自分の車の前方から音が聞こえる。「え なに どうした」温度計を見ると、ぴんと跳ね上がっている。「あれれ オーバーヒート かな」「家まで 10 分 なんとか 止まらず 走ってくれ」と車君にお願いしながら、湯気を出しながら、ゆっくりと進んだ。

翌日見ると、油性のシミが地面に垂れている。ラジエーターのふたを開けやかんの水を入れたが漏れはない。これ以上はちんぷんかんぷんのエンジンの話。休み明けに、行きつけのオートボックスに電話を入れ、10 分ぐらいゆっくり走らせ車を持って行った。後刻電話で、「部品交換になります 3 日ほど預からせてほしい」4 日目の今、「修理ができあがった」という連絡を受け、店まで車を取りに歩いているのだ。「ラジエーターのサーモスタットの弁を取り替えました 12732 円です」我が車君、もう年季が入っている、故障も多い、出先での故障でなくてよかった。

出先の故障ということで思い出すのが、北岳登山の話。今、地図を見ながらまたまた、「あれれ」である。諏訪湖・山梨県・東京これらの向きが、オレの頭の中とは違う方向であること発見し、いささか愕然。「ま いいか」頭の中では、北に向かっていると思ったが、諏訪湖が一番北だった。これ以上はいうのも恥ずかしい。

北岳の話：60 歳ぐらいだったと思う。画商の近藤さんと二人で、大阪を出発した。オレの車、日産バイオレット SSS という車、新車を買って 3 年ぐらいかな。中央自動車道の葦崎 IC で降り、夜叉人峠に向かった。どのあたりかは忘れたが、山の中をグニグニ進み多少の窪みで車がバウンドしてすぐにエンジンが止まった。それから動かなくなった。500M ぐらいにあった民家で電話を借り、JAF に連絡した。2.3 時間待って、JAF 車がやってきた。車を見て、すぐにエンジンがかかった。「ヒューズです こんな簡単なことで 申し訳ないが、1.5 万円です」整備工にとっては簡単なことでも、オレにはちんぷんかんぷん。同道の近藤さんも、「まさかヒューズとは 考えもしなかった」山の中とは言え、民家が近くにあったこと、時間がまだ昼だったこと、3 時間のロスで予定通り登山口に着いた。

当時の南アルプス、夜叉人峠から、南アルプス街道を乗用車で中のほうまで乗り入れられた。広河原の駐車場で車を止め、白根御池小屋まで荷を担ぎ、まずはテントを張った。当時はまだまだ体力があった、テント場までの行程を軽々歩いていた。北岳は何度か登っている、肩の小屋でスケッチをした絵がアトリエにあったのを覚えている。翌日は反時計回りに北岳を一周してテント場まで帰りそのまま帰阪した。近藤さんは、その後三重県の方に移住され、タクシーの運転手をしているということだったが、何年か前から音信不通になった。いくつか年上だったように思う。

安威川河川敷に来ております。今日の天気予報は、「春の暖かさがやってくる 朝晩は冷え込みますが 昼間は上着を手を持つほどに・・・」ついでに、「スギ花粉が さかんに 飛んでいます」ということだが、何日か前から、鼻もぞもぞ、目がかゆい、花粉症の季節がやってきましたね。昨日まで、寒波が来ていた。昨日の夜も、一昨日の夜も、その前の夜も寒かった。半月前か、もっと前か忘れたが、強烈大寒波が来た時は、この安威川の流れが、緩やかなところの本流に、多少分厚い氷が張っていた。「安威川に きだして 四半世紀かな 水たまりが薄っすら 凍ることは あったが・・・」とびっくり。あの時は寒かった、寒い日が何日も続いた。それに比べると今回は寒波だといったところで、まずはゆるせる寒さだった。天気予報氏も、「この寒さも 日に日にあたたかく 来週は春の陽気」と言っている。こういわれるとあと何日の辛抱で、暖くなるそうだと希望が持てる。アトリエの中も温度が上がらず、厚手のジャンパーを重ね着し、「ああ さむい ちみたい」とうなっていた。

冬中はズボンの重ね着、ネックウオーマー、毛糸の帽子、厚手のジャンパーでここに来ていた。今日は暖かいとはいえまだまだ冬真っ最中、それでも下はズボンを1枚、上はシャツ2枚ジャンパー2枚、上のジャンパーは前をはだけている。空は白っぽい青空、迫力のない空、なんていうのは空に対して失礼だけれど、白濁した青がかすんでいる。黄砂なのか、花粉なのか、「あれれ 目 かゆくなってきた くしゃみが・・・」

先日、かんちゃんが、我がテリトリーの安威川にやってきた。以前から、衣川さんとかんちゃんと三人で鳥談義のメールが続いている。「毎日安威川で 鳥 見えていますよ」「カモ オオバン サギ カワウ たくさんいますよ」「なら いきます どういったらいい？」早速、最寄り駅と安威川の地図を送った。まずはすぐにひとりで見にきたようで、「すごい数の 鳥がいた ここはすごい」「〇〇カモのオスとメス、〇〇と〇〇、それに、チュウヒがいました」という。

「チュウヒ」とはどんな鳥、聞いたことがあるようなないような・・・。調べると、漢字では、「宙飛」これから来ているのではないかという。ついでに、「ノスリ」これも猛禽だが、「野擦」から来ているらしい。オレは、毎日のように安威川河川敷にやってくるが、そんなすごい鳥がいるのかと驚いた。

かんちゃんが、「ワシタカ類 けっこう いますよ よう みつけん だけですよ」という。ワシタカ類が、いるとは・・・「ほんま かいな」と思っていた。しばらく前にいつもの定位置のベンチでストレッチ体操をしていた。寝転んで上を向いて足を上げていた。水の上あたりで、ホバリングする鳥がいる、「あれれ あれは ひょっとして チョウゲンボウ」それからは毎日姿を見たり、半月ほどご無沙汰だったり、チョウゲンボウ君だ。

二日ほど前に、かんちゃんと、「安威川と 大正川の 合流地点で 会いましょう」と決めた。オレはそこに、1時間強前に自転車に着き、そこから上流に向かってオジン走りで30分、折り返して30分、ちょっと早めに合流地点に帰ってきたら、かんちゃんはすでに来ていて、双眼鏡で水辺を見ていた。「岡村さん あれが 〇〇カモのオス これが・・・」と説明が始まった。「カモの違いは わかりません」「鳥にあまり 深入りすると あとがたいへん」なんて笑いながら、上流に向かって歩いた。

本当は、かんちゃん、鳥のカウントをしたかったと思うが、オレの案内やら、久しぶりのおしゃべりやらで、今日は正式な鳥観察はできずに申し訳ない。おしゃべりの最中に、「あれ いますよ あれ それ」指さす方に鳥が飛んでいる。「えええ あれが チュウヒ えええ がかい カラスの大きさ」まさかのチュウヒ君の出現、「ちょうげんぼう もいいが これはすごい 大きい 優雅 きれい・・・」持参していた双眼鏡で、ずっと姿を追った。川下の方に飛んでいく、大きく羽を上下にくゆらし、すげえ、すげえ、と飛んでいった。

- ◎この先生は知らなかった、ページをめくると、女性器の俗名が、快楽が・・・、スカートの中の劇場だと、パンティという響き、なんと楽しくなる文字と言葉が踊る。「??? これは なにかいな・・・」
- ◎ネットで画像を見ると、「なんと 普通のおばちゃん 普通の いい感じの人だ」とまずはひと安心。それに、歳もたった二歳下。著作の中身は、社会学者そのもので、現代の話題が、哲学が、キリキリと、難解な言葉が機関銃のように、ばりばりばり、ちょっとこなれて、連発される。
- ◎上野先生：フェミニズムは何らかの形で、女性の経験、おかれた立場などを共通のものと暫定的にみなし、そこに問題を発見し改善していこうとする運動と思想であり、さまざまな変数の中でもジェンダーをさしあたり優先させて物事を見る考え方。どこかで女というカテゴリーを想定して、それをベースにするものでないのか。
- ◎フェミニズムが女たちの運動とすれば、女どうしが意識的に手をつなぎ、運動の力にしようとした。1970年代、女性が普遍的に抑圧され、搾取されてきたと主張し、それを共通の認識とすることによって状況を変革していこうという運動であった。しかし、女性間の人種と階級の違いは大きかった。女性だけで手をつなげるというのは幻想だった。
- ◎フェミニズム：女性解放思想、およびこの思想に基づく社会運動の総称。政治制度・文化慣習・社会動向などのもとに生じる性別による格差を明るみにし、性差別に影響されず万人が平等な権利を行使できる社会の実現を目的とする思想または運動である。
- ◎ジェンダー：多義的な概念であり、性別に関する社会的規範と性差をさす。性差とは、個人を性別カテゴリーによって分類し、統計的に集団として見た結果、集団間に認知された差異をいう。
- ◎大人が子どもに説教をたれるときに、「〇〇ちゃん そこは ちょっと 考えないとね」とのたまうが、「のたまう 大人の〇〇ちゃん あんたのほうが そこんところは 考えないと あかんのん ちゃう」ということを考えてみた。
- ◎指導する、諭す。組織の中に入ると、その中の上下関係で、文句をいったり言われたり、これが社会だ、しょうがない。社会から外れると、なかなか生き方の苦勞が絶えない。
- ◎河原での、チュウヒ鳥の話。オレはその河原にほとんど毎日のように出向く。そんな珍しい鳥がいることさえ知らなかった。かんちゃんが、「チュウヒが いますよ」という。後日、河原を同道してもらおうと、いた。前に向かって飛んでいった。我々が引き返したら、また後ろから前に向かって羽ばたいていった。かんちゃんは2回来て2回とも見ている。オレはその後も毎日のように河原に行って空を見上げているが、チュウヒ君にはまったく会わない、姿も見せない。かんちゃんの確率は2回来て2回の100%。オレは日が経つにつれ、10%が5%にと下がっていく。
- ◎確率とか、賛成多数とか、みんなが納得した方に、さまざまに進行方向が決まっていく。方向ってひとつじゃないことはわかっているが、一つの方角しか選べない。「たかが方向 たかが確立 たかだかしれたもの」とうそぶいて、交差点でぶいと、見得を切り、天を見上げてみたいものだ。
- ◎数字、基本の数字自体が、数字で表せない世界、こんなものは世間にごろごろある。むしろ数字で解決するわけがない世界のほうが多い。対称であることと、非対称であること、これもまた対象（対称にこだわるな）ばかりではない、いやむしろ対称なんて珍しいこと。
- ◎地球の上では、水は低い方に流れる。その時に水は、削ったり、盛り上げたり、形を作っていく。大きく見ればその形が球体、そう地球は丸いから。けども、よ、丸いということを見れば、どうということになるんかね。宇宙空間では水はどいいう方向に流れるの、それとも流れずにとどまるの。そんなもの、すべてのものが条件付きの話じゃないの。重力があるとか、遠心力があるとか、幼稚な物理の話で失礼。